



生産・アフターサービスを強化

マークテック 社長 松川 英文



昨年は超円高の影響から自動車産業が生産拠点の海外移転を一段と加速しました。大手自動車メー

カーのみならず、中小の部品メーカーも海外展開する新しいステージに突入しました。また欧州の不景気の影響から経済成長が減速した中国が、

安価な鉄鋼製品を大量にアジア市場に放出したため、鋼材価格が大幅に下落し鉄鋼メーカーの業績が大幅に悪化しました。このような経営環境から自動車産業、鉄鋼産業がともに国内の設備投資を抑制する厳しい一年となりました。

当社はこのような国内市場の縮小に備えるため、すでに韓国、中国、タイに現地法人を設立し海外市場の開拓に取り組んできましたが、中国に

において、尖閣諸島の領有権に端を発する政治問題が反日デモ、日本製品不買運動にまで発展するに及んで、現地日系自動車メーカーが販売不振に陥り大幅な減産を余儀なくされて、中国子会社の探傷剤の売上げも大きな影響を受けました。

チャイナリスクの大きさが改めて認識され、中国に現地法人を持つ企業は早くもリスク分散のため、タイ、インドネシア、ベトナム等での生産比率を高めており、新工場の建設ラッシュが続いています。今の日本には無い活気に溢れ、沢山のビジ

ネスチャンスに恵まれています。沢山のチャンスがありますが、リーリスクが存在するの事実です。日本の商習慣、常識が通用しない海外でリスクを予測しヘッジするのは容易ではありませんが、多くの失敗から学んで当社のビジネススタイルが確立しつつあります。

新工場も稼働し生産体制、アフターサービス体制も強化されましたので、海外に展開するお客さまにも当社製品の安定供給とサービスの提供が可能となりました。ご期待下さい。